現代日本語の可能文における目的語マーカー「が」「を」について（2）

―五段動詞・一段動詞を述語とする場合を中心に―

田　村　泰　男

0．はじめに

他動詞構文の直接目的語（以下目的語[1]と表記）は普通、対格助詞の「を」を伴って表層化されるが、動詞が可能形となった場合は、目的語に主格助詞の「が」を付加することも可能となる。これは、動詞が状態性を帯びるために起こると考えられ[2]、願望表現「～たい」にも同様の現象が見られる。

この現象に関して筆者は先に田村(1995)で、複合動詞「～する」の可能形「～できる」[3]を述語とする構文における目的語マーカーについての調査を行った。本稿はそれに続くもので、述語が五段動詞・一段動詞に属する他動詞の可能形である場合及び「～できる」という語形を取らないサ変動詞可能形の場合の目的語マーカーについて調査・検討するものである。

1．調査資料及び用例

調査に用いた資料は文庫本185冊で、これについては論文の最後に一括してあげることとする。なお本稿では、目的語が現れない用例や目的語が係助詞「は」や「も」を伴う用例は[4]、調査の対象としていない。また、次のような用例も本稿では対象から外した。

・比較を表す「方」を含む場合

むしろ、・・・こんな文書をばらまく行為の方が許せないな」（十角館の殺人 69）

鏡が映した向かいの広告会社の名の方が自然に読めた。（マジックミラー 269）

・目的語が二つの述部にかかると考えられる場合

でも、それを口に出していえなかった。（孤独な殺人者 70）

・・・高木和子の顔を、そらで思い出せるほどに記憶していた。（魔術はささやく 323）

・引用の助詞「と」がある場合（同格を表す用法も含む）

それが真の理由だともいえなかった。（宿命 75）

ガラスが割れずに残っているのが、奇蹟的と言えた。（一の悲劇 267）

それが初恋と呼べるかどうかわからないが、・・・。（受け月 133）

「これが料理といえればの話だけどね」（金雀枝荘の殺人 233）

・疑問の助詞「か」がある場合

私にはそれがなにか聞きとれなかった。(白い人・黄色い人 48)
しかし、その男が何者かつかめなければ、・・・。(警視庁捜査一課南平班 190)

・語形は五段動詞の可能形と同じであるが、自動詞的表現と考えられる用例
本／新製品がうれる。
刃が（よく)／緊張の糸がきれる。
雪／緊張（感)／結び目／魔法／氷／金縛り／呪縛／縄／しこりがとける。
動物／植物／鉱物／疲れ／包帯／熱／眠気／緊張／重荷／痛み／均整／釣り合い／調和／平衡／バランス／均衡／抑制／統一がとれる。
学生気質／正月気分／ショック／いつもの癖／緊張がぬける。
魚／家がやける。　　均衡がやぶれる。
身元／正体／素性／顔／底がわれる。

・一段動詞のうち、受身や自発などとの区別が難しい動詞
見る、得る、忘れる、感じる、信じる、認める、確かめるなど

なお、これら以外にも自動詞や受身・自発との区別が難しい用例があったが、文脈によって、筆者が選別した。

2．動詞別に見た場合の「が」「を」の分布状況

ここでは、3例以上用例を集めることができた動詞について、動詞ごとに目的語マーカー「が」「を」の出現状況を表にしてみる。なお、同音異義語については、漢字を用いるか或いは意味を表記して内訳を記すこととする。

動詞（用例の総数)	が	を	動詞（用例の総数)	が	を
あいする(10)	0	10	あわせる(7)	2	5
あきらめきる(4)	1	3	いいきる(3)	3	0
あける(9)	3	6	いいだす(3)	2	1
あげる			いう(138)	92	46
上・挙げる(17)	13	4	いかす(5)	2	3
“与える”の意味(1)	1	0	いただく(29)	4	25
あじわう(6)	4	2	いなむ(3)	1	2
あたえる(5)	0	5	いれる(12)	3	9
あつかう(4)	2	2	うかがう		
あつめる(4)	3	1	伺う(10)	6	4

動詞（用例の総数）	が	を	動詞（用例の総数）	が	を
あばく(3)	1	2	窺う(47)	45	2
あやつる(3)	0	3	うけとる(8)	3	5
うけいれる(5)	1	4	くいとめる(3)	0	3
うける(14)	6	8	くう(22)	20	2
うごかす(9)	2	7	くずす(16)	10	6
うたう(3)	2	1	くだす(4)	0	4
うつ(23)	10	13	くみたてる(3)	0	3
うつす(3)	1	2	くみとる(3)	3	0
うばう(4)	0	4	くむ(4)	1	3
うむ(13)	5	8	けす(7)	2	5
うめる(5)	1	4	げす(12)	11	1
えがく(18)	12	6	ことわりきる(4)	1	3
えらぶ(3)	0	3	ことわる(6)	1	5
おう(3)追う	1	2	ごまかす(5)	1	4
おかす(3)	0	3	こらえきる(5)	1	4
おきかせねがう(3)	0	3	ころす(99)	12	87
おぎなう(3)	1	2	こわす(3)	0	3
おく(3)	3	0	さがしだす(10)	3	7
おくる(12)	5	7	さがす(3)	1	2
おこす(5)	1	4	ささえきる(6)	0	6
おこなう(17)	5	12	さしこむ(4)	2	2
おさえきる(31)	1	30	さす(8)	2	6
おさえる(24)	5	19	さばく(4)	1	3
おさめる(3)	2	1	しかける(3)	1	2
おとす(5)	1	4	しずめる(3)	0	3
おぼえる(7)	2	5	しのぐ(3)	0	3
おもいだす(32)	15	17	しぼる(7)	4	3
おもいつく(4)	1	3	しめす(3)	1	2
かう(25)	18	7	しめる(4)	1	3
かえす(9)	2	7	しゃべる(6)	4	2
かく(51)	37	14	しらべる(8)	3	5
かくしおおす(3)	0	3	すう(8)	4	4
かくしきる(16)	1	15	すくう(7)	0	7

動詞（用例の総数）	が	を	動詞（用例の総数）	が	を
かくす(30)	2	28	すごす(12)	1	11
かける(26)	7	19	すすめる(3)	1	2
かせぐ(12)	6	6	すてきる(17)	1	16
かたる(4)	0	4	すてる(10)	0	10
かりる(12)	4	8	する(5)	5	0
かんじとる(13)	7	6	せめる(6)	2	4
ききだす(9)	1	8	たおす(3)	1	2
ききとる(18)	15	3	だく(26)	0	26
きく			だす(103)	51	52
利く(40)	35	5	たすける(9)	0	9
聞・訊・聴く(61)	39	22	たたく(3)	3	0
きりかえる(3)	1	2	たちきる(6)	2	4
きりだす(3)	3	0	たてる(10)	5	5
きりぬける(3)	0	3	たどる(4)	3	1
きる			たべる(20)	12	8
切・斬る(9)	6	3	たのしむ(13)	6	7
着る(3)	1	2	たのむ(6)	1	5
だます(4)	0	4	はらす(3)	1	2
たもつ(12)	6	6	はる(6)	0	6
つかう(63)	25	38	ひきだす(13)	1	12
つかまえる(16)	3	13	ひきぬく(4)	3	1
つかむ(175)	152	23	ひく		
つきとめる(19)	11	8	引く(6)	3	3
つく(18)	10	8	弾く(3)	3	0
つぐ(11)	6	5	ひろう(10)	7	3
つくる(61)	35	26	ふせぐ(15)	4	11
つける(45)	27	18	ふみだす(3)	1	2
つたえる(3)	0	3	ふむ(3)	0	3
つづける(16)	7	9	まかせる(5)	0	5
つっこむ(3)	0	3	まちきる(9)	3	6
つぶす(4)	1	3	まつ(6)	4	2
てばなす(4)	2	2	まもる(10)	3	7
とおす(4)	1	3	みいだす(19)	6	13

動詞（用例の総数）	が	を	動詞（用例の総数）	が	を
とく(108)	98	10	みうける(4)	4	0
とげる(3)	0	3	みおろす(26)	18	8
とめる			みすごす(3)	0	3
止・制める(19)	3	16	みせる(4)	1	3
泊める(2)	0	2	みつけだす(8)	1	7
とらえきる(3)	0	3	みつける(27)	4	23
とらえる(5)	2	3	みとおす(23)	15	8
とりもどす(9)	0	9	みぬく(14)	4	10
とる(290)	258	32	みやぶる(7)	5	2
ながめる(15)	13	2	みわける(12)	9	3
にぎる(5)	1	4	みわたす(31)	27	4
ぬく(9)	4	5	もちあげる(3)	1	2
ぬぐいきる(4)	4	0	もちだす(3)	1	2
ぬぐう(3)	1	2	もつ(137)	107	30
ねらう(8)	2	6	もらう(64)	27	37
のこす(4)	0	4	やしなう(3)	1	2
のぞく(25)覗く	20	5	やすむ(5)	1	4
のぞむ(11)	7	4	やぶる(5)	3	2
のばす(3)	2	1	やめる(4)	3	1
のみこむ(52)	47	5	やる		
のむ(21)	11	10	“する”の意味(33)	16	17
はかる(4)	2	2	“与える”の意味(2)	0	2
はこぶ(9)	4	5	ゆるす(89)	39	50
はさむ(3)	0	3	よぶ(9)	0	9
はずす(4)	0	4	よみとる(35)	31	4
はたす(16)	1	15	よむ(69)	65	4
はなす			わたす(6)	1	5
話す(16)	7	9	わりきる(3)	2	1
離・放す(24)	18	6	わりだす(17)	9	8
はぶく(25)	25	0			
はらいきる(3)	2	1			
はらう(21)	15	6			

3．動詞と目的語マーカーの間に見られるいくつかの特徴について

ここでは、目的語マーカーとして「が」が優勢な動詞、「を」が優勢な動詞それぞれに見られる特徴について考察してみる。

(1)「が」が優勢である動詞

先ず目につくのが、「いう」(92:46)、「かう」(18:7)、「かく」(37:14)、「きく」(39:22)、「とく」(98:10)、「とる」(258:32)、「もつ」(107:30)、「よむ」(65:4)など、比較的用例数が多く二音節の動詞である。もちろん、のむ(11:10)、やる(16:17)のように揺れている動詞もあるし、「とく」や「とる」の可能形のように自動詞と語形が同じであるため、意味上判定がむずかしい場合もあるが、2章で見る限り、よく使われる音節数の少ない動詞は「が」が優勢であると言えそうである。

次に挙げられるのは、「ながめる」(13:2)、「みおろす」(18:8)、「みとおす」(15:8)、「みわたす」(27:4)や、「窺う」(45:2)、「のぞく」(20:5)など、「見る」の意味をもつ動詞グループである。これは、「ききとる」(15:3)や「よみとる」(31:4)にも通じるものかもしれないが、感覚的な行為の対象には主格助詞「が」が付加されることが多いと言えそうである。

(2)「を」が優勢である動詞

ここに含まれるグループとしては、先ず目的語として［+human］をとる動詞を挙げることができる。これらの動詞が実際に［+human］を目的語としてとった場合の用例数を表にしたものが次表である(五例以上用例があるもの)。表から明らかなように、ここにある動詞が行う動作は、対象に対する精神活動から対象全体の状態に変化を起こすものまで様々であるが、いずれの場合も目的語マーカーとしては「を」が優勢である。

動詞	が	を		動詞	が	を
あいする	0	10		だく	0	26
うむ	5	8		たすける	0	7
ころす	12	86		つかまえる	2	8
さがしだす	2	6		みつけだす	0	5
すくう	0	6		ゆるす	14	26
せめる	1	4				

二番目に挙げることができる動詞グループは、次表に示す「きる」を後項としてもつ複合動詞である（五例以上用例があるもの)。

動詞	が	を		動詞	が	を
おさえきる	1	30		ささえきる	0	6
かくしきる	1	15		たちきる	2	4
こらえきる	1	4		まちきる	3	6

「～きる」は、前項動詞の動作が完遂したことを表す。つまり、動詞の表す動作が完全に或いは十分に対象に及ぶことを意味するわけであるから、動詞が、状態性を帯びてもなお目的語である対象に対してある程度支配力を保ち、そのため目的語が主格助詞「が」をとりにくいのではないかと考えられる。「はたす」(1:15)や用例は少ないが「とげる」(0:3)もこれに類するものと考えていいだろう。

三番目に挙げることのできるグループは、次表に示す対象の移動や受け渡しを含意する動詞である（五例以上用例があるもの)。

動詞	が	を		動詞	が	を
あたえる	0	5		かりる	4	8
いただく	4	25		だす	51	52
うごかす	2	7		とりもどす	0	9
おくる	5	7		はこぶ	4	5
おとす	1	4		もらう	27	30
かえす	2	7		わたす	1	5
かくす	2	28				

角田(1991)[5]によれば、移動や授与を表す動詞は原型的他動詞に含まれるという。言い換えれば、これらの動詞は他動性が高いと言えるわけであるが、このため、上記の「～きる」同様、動詞が目的語たる対象に対してある種の支配力を発揮するものと考えられる。
また、移動を表す動詞に準じるものに、「だす」を後項としてもつ複合動詞がある。

動詞	が	を		動詞	が	を
おもいだす	15	17		みいだす	6	13
ききだす	1	8		みつけだす	1	7
さがしだす	3	7		わりだす	9	8
ひきだす	1	12				

基本的な意味において、「だす」は内から外へ対象を移動させることを意味する。そして、「だす」を後項とする複合動詞においても、この移動という意味は受け継がれている。ただ、複合動詞の場合は、必ずしも具体的なA地点からB地点への移動を表すだけではなく、

対象物や抽象的な事柄が明るみに出るといった、抽象的な意味での移動を含意する場合もある。

4．慣用句（熟語）について

ここでは先ず慣用句（熟語）中の動詞が可能形になった場合、目的語の位置に立つ名詞句が「が」「を」どちらの助詞でマークされているかを表にしてみる。[6)]

慣用句・熟語	が	を	慣用句・熟語	が	を
ものを　いう	13	2	写真を　とる	6	2
～を　手にいれる	2	5	息を　つく	4	0
声を　かける	0	7	嘘を　つく	5	8
手を　つける	11	3	二の句を　つぐ	5	0
時間を　かせぐ	3	2	時間を　つぶす	1	2
電話を　かける	3	4	気を　ぬく	2	1
口を　きく	35	5	手を　ぬく	2	3
顔を　だす	0	3	手を　はなす	9	2
口を　だす	2	0	目を　はなす	8	2
声を　だす	9	12	気を　ゆるす	0	6
手を　だす	25	13	心を　ゆるす	0	4
～口を　たたく	3	0	心を　よむ	5	0

慣用句であっても、動詞が可能形になると目的語マーカーとして「が」が現れ得ることが表からわかる。そして、「が」「を」の出現比率は当然慣用句によって異なるのだが、これは大凡２章の表に準じていると言える。ただし、用例数は少ないものの、「声をかける」「気／心をゆるす」など、目的語マーカーとして「が」が現れなかった慣用句も見られる。

5．主語と目的語の間の格関係について

３章、４章では意味を中心に考察を進めてきたが、この章では、いくつかの動詞を例に、可能文中の主語がどの助詞を伴って表層化されているかを調べ、主語と目的語の間に見られる格関係について検討してみる。なお、ここで取り扱う動詞は全用例が50以上あるもので且つ「が」「を」それぞれが10例以上あるものとし、次のような用例を対象とした。

・単文中にある場合

しかし、ぼくは自分の気持ちを言えなかった。（卑弥呼殺人事件 11）

音代は、帖佐を山の中では殺せなかった。（新潟発「あさひ」複層の殺意 234）

・複文中にあっては、主節と従属節の主語が異なると考えられる場合

涼が本音を言える相手は、リエくらいのものだった。(丹波家殺人事件 30)

「その前に、行武が紗絽女を殺せたかどうかをもう少し徹底的に検討してみよう。

(りら荘事件 156)

但し、主節の主語と従属節の主語が同じと考えられる場合でも、次の用例のように従属節の後に主語が置かれる場合は対象に含めた。

「実際に人を殺していないから、未樹さんはそんなことが言えるんです」

(シンデレラの五重殺 351)

目的語	が				を			
主　語	が	は	に	には	が	は	に	には
いう	2	5	1	1	3	5	0	0
かく	1	3	3	0	2	0	0	0
聞く	0	1	0	0	0	0	0	0
ころす	0	0	5	1	16	6	6	5
だす	2	6	1	2	2	9	0	1
つかう	0	1	0	0	0	5	0	0
つかむ	0	3	1	13	0	2	0	0
つくる	0	0	2	0	3	0	0	0
とく	0	0	1	3	3	1	1	0
とる	2	9	1	0	1	3	0	0
もつ	0	12	0	5	2	5	0	0
もらう	0	0	0	0	1	3	0	0
ゆるす	0	9	0	3	6	7	0	0

この表から言えることは、大凡次の二点である。

(1)目的語に主格助詞「が」が付加されている場合、主語は与格主語となるか、或いは主題化されて「は」を伴って現れていることが多く、主格主語となっている用例は少ない。

(2)目的語に対格助詞「を」が付加されている場合、主語は主格主語となるか、主題化されて「は」を伴って現れていることが多い。

原則としては、このようにまとめることができ、二重主格文を避ける[7]という傾向を見ることができる。

なお、ここで注意を引くのは動詞「ころす」である。主語が与格であっても、目的語が

対格形のまま表層化されている用例が多く見られるという点においてである[8]。「ころす」という動詞は対象である目的語全体に変化を及ぼし、強い他動性をもった動詞と言える。このため目的語が主格で現れるのが自然であるようなところでも、対格形が多く用いられるのであろう。これについては、さらに用例を集め、稿を改めて論じたいと思う。

6．おわりに

可能文を分析する上で一番問題となるのは、やはり自動詞や自発・受身などとの関係である。これらと可能とを完全に区別することは不可能であろう。なぜならば、そこには形態論や統語論だけではなく、意味論の問題が深く関わっているからである。それを承知で調査を行い、考察を進めたのが本稿であるが、いくつかの有益な点もあったように思う。これまで筆者は主に、―可能文の目的語には主格助詞「が」を付加することができる―という観点から可能文というものを考えてきたが、本稿における調査・考察によって、可能文となっても目的語に付加される助詞が主格助詞「が」に変わることが少なく、対格助詞「を」のままであることの多い動詞の存在について、再認識することができた。そこには、他動性や完遂性といった問題が含まれており、単にヴォイスだけの問題ではなく、総合的な研究が必要であるように思われる。

本稿では、目的語に付加される助詞に焦点を当てて考察を進めてきたが、可能文全体に関しては、明らかにすべき点がまだいくつか残されている。本稿では扱わなかった使役可能文や、自動詞の可能文についての検討も必要であろう。今後は、音声資料等も対象に含めた上で、様々な角度から考察を加え、その全貌の解明に取り組みたいと思う。

注

1)ここでいう「目的語」とは統語範疇における用語であり、意味レベルでは「対象（格）」というべきものである。

2)cf．柴谷(1978) p.236，井島(1991) pp.149-153

3)例えば、「理解する」「達成する」の可能形「理解できる」「達成できる」など。

4)次の例文のように、助詞「を」にさらに「も」が続くようなものも当然対象から外した。

牛をも一撃で倒せるというところから名前が出たのでしょう。(強力伝・孤島 27)

同時に、わたし自身をも許せないと思った。(一の悲劇 15)

5)cf．角田(1991) pp.72-74

6)白石(1977)を参考にしながら、用例の多いものを中心に筆者が選び出した。

7)cf．寺村(1982) pp.257-258，井島(1991) p.150

8)井島(1991) p.150に次のように述べてある。

・・・、他動詞が可能表現を作るときは動作主格はガ格かニ格となり、対象格はヲ格かガ格となる。ただし、ニ格とヲ格との組み合わせは排除される。

また、田村(1995)の調査では次のような結果が出ている。

目的語	が				を			
主　語	が	は	に	には	が	は	に	には
～できる	0	11	4	28	58	38	0	2

主要参考文献

井島正博(1991)「可能文の多層的分析」、『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版

角田太作(1991)『世界の言語と日本語』くろしお出版

柴谷方良(1978)『日本語の分析』大修館書店

白石大二(1977)『国語慣用句大辞典』東京堂出版

田村泰男(1995)「現代日本語の可能文における目的語マーカー「が」「を」について
　－「～できる」を述語とする場合－」『吉川守先生御退官記念言語学論文集』溪水社

寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版

寺村秀夫(1992)「日本語における単文、複文認定の問題」、『寺村秀夫論文集Ⅰ』
　くろしお出版

調査を行った小説のリスト

阿井渉介『赤い列車の悲劇』講談社文庫、『湖列車連殺行』講談社文庫、
　　『卑弥呼殺人事件』徳間文庫

青島幸男『人間万事塞翁が丙午』新潮文庫

赤川次郎『真実の瞬間』新潮文庫、『東西南北殺人事件』講談社文庫

浅黄　斑『夫婦岩殺人水脈』光文社文庫

梓林太郎『殺意の雪宴』光文社文庫、『殺人氷壁』光文社文庫、
　　『北アルプス爺ケ岳の惨劇』祥伝社

姉小路祐『刑事長』講談社文庫

我孫子武丸『０の殺人』講談社文庫、『８の殺人』講談社文庫、
　　『メビウスの殺人』講談社文庫

安部公房『砂の女』新潮文庫

阿部牧郎『春山課長・三十六歳』徳間文庫

綾辻行人『殺人方程式』光文社文庫、『十角館の殺人』講談社文庫、
　　『人形館の殺人』講談社文庫、『迷路館の殺人』講談社文庫

鮎川哲也『朱の絶筆』講談社文庫、『りら荘殺人事件』講談社文庫

有栖川有栖『マジックミラー』講談社文庫、『46番目の密室』講談社文庫

井沢元彦『欲の無い犯罪者』講談社文庫、『六歌仙暗殺考』講談社文庫

伊集院静『受け月』文春文庫

五木寛之『冬のひまわり』新潮文庫

井上　靖「猟銃・闘牛」新潮文庫
今邑　彩「金雀枝荘の殺人」講談社文庫
色川武大「百」新潮文庫
歌野晶午「動く家の殺人」講談社文庫、「死体を買う男」光文社文庫、
「白い家の殺人」講談社文庫
内田康夫「「信濃の国」殺人事件」講談社文庫、「多摩湖畔殺人事件」光文社文庫、
「風葬の城」講談社文庫、「平家伝説殺人事件」廣済堂文庫
「美濃路殺人事件」徳間文庫
円地文子「渦」集英社文庫
遠藤周作「白い人・黄色い人」新潮文庫
大江健三郎「死者の奢り・飼育」新潮文庫
大沢在昌「アルバイト探偵」講談社文庫、「調毒師を捜せ」講談社文庫
太田忠司「昨日の殺人」講談社文庫
太田蘭三「餓鬼岳の殺意」講談社文庫、「殺人雪稜」講談社文庫、
「失跡渓谷」講談社文庫、「寝姿山の告発」講談社文庫
岡嶋二人「解決までは後６人」講談社文庫、「99％の誘拐」徳間文庫、
「そして扉が閉ざされた」講談社文庫
奥田哲也「三重殺」講談社文庫
折原　一「鬼面村の殺人」光文社文庫、「黒衣の女」徳間文庫、
「丹波家殺人事件」講談社文庫、「「白鳥」の殺人」光文社文庫
開高　健「パニック・裸の王様」新潮文庫
門田泰明「紅恋」光文社文庫、「雀羅」光文社文庫、
「授戒」光文社文庫
川田弥一郎「白く長い廊下」講談社文庫
川端康成「みずうみ」新潮文庫、「雪国」新潮文庫
北　杜夫「夜と霧の隅で」新潮文庫
北方謙三「夜の終り」講談社文庫
桐野夏生「顔に降りかかる雨」講談社文庫
草野唯雄「恐山「黄金の国」殺人海峡」徳間文庫、「自首願望」光文社文庫、
「死霊鉱山」光文社文庫
栗本　薫「鬼面の研究」講談社文庫
胡桃沢耕史「黒パン俘虜記」文春文庫
黒崎　緑「闇の操人形」講談社文庫
小池真理子「間違われた女」祥伝社、「夜ごとの闇の奥底で」新潮文庫
河野多恵子「幼児狩り・蟹」新潮文庫
木谷恭介「死者からの童唄」徳間文庫、「「水晶の印」殺人事件」光風社文庫、
「函館殺人事件」桃園文庫、「龍神の森殺人事件」光風社文庫
斎藤　栄「鎌倉薪能殺人事件」光文社文庫、「完全アリバイ」徳間文庫、
「禁色の殺人」徳間文庫、「枕草子殺人事件」光文社文庫
斎藤　澪「ノサップ岬の女」講談社文庫、「花まつり殺人事件」講談社文庫
佐伯一麦「ア・ルース・ボーイ」新潮文庫
佐々木丸美「沙霧秘話」講談社文庫
笹沢左保「悪魔岬」光文社文庫、「終りなき鬼気」徳間文庫
佐野　洋「乾いた肌」角川文庫
志賀　貢「DNA鑑定殺人事件」光文社文庫
島田一男「熱海走り湯殺人事件」徳間文庫、「捜査本部」徳間文庫、
「極楽坂の首吊り女」徳間文庫

島田荘司『出雲伝説7/8の殺人』光文社文庫、『死者が飲む水』講談社文庫、
『天に昇った男』光文社文庫、『斜め屋敷の犯罪』光文社文庫
清水一行『器に非ず』光文社文庫
城山三郎『総会屋錦城』新潮文庫
杉本章子『東京新大橋雨中図』文春文庫
瀬戸内寂聴『幸福と不安と』新潮文庫
曽野綾子『二十一歳の父』新潮文庫
高橋克彦『偶人館の殺人』祥伝社
高橋三千綱『九月の空』角川文庫
竹本健治『妖霧の舌』光文社文庫
司　凍季『からくり人形は五度笑う』講談社文庫、
『首なし人魚伝説殺人事件』光文社文庫
辻　真先『江戸川乱歩の大推理』光文社文庫、『十和田湖畔に死体が踊る』徳間文庫
土屋隆夫『孤独な殺人者』光文社文庫
津村秀介『海峡の暗証』講談社文庫、『山陰殺人事件』青樹社文庫、
『寝台特急18時56分の死角』講談社文庫
東野圭吾『ある閉ざされた雪の山荘で』講談社文庫、『宿命』講談社文庫、
『天使の耳』講談社文庫、『ブルータスの心臓』光文社文庫、
『仮面山荘殺人事件』講談社文庫
鳥羽　亮『一心館の殺人剣』講談社文庫、『首を売る死体』講談社文庫、
『警視庁捜査一課南平班』講談社文庫
豊田行二『第一秘書の野望』祥伝社、『野望銀行』光文社文庫
中町　信『津和野の殺人者』講談社文庫、『天童駒殺人事件』徳間文庫、
『萩・津和野殺人事件』ケイブンシャ文庫
夏樹静子『黒白の旅路』講談社文庫、『蒸発』角川文庫、
『そして誰かいなくなった』講談社文庫
西村京太郎『急行もがみ殺人事件』角川文庫、『特急「にちりん」の殺意』講談社文庫、
『殺人列車への招待』角川文庫、『寝台特急「北陸」殺人事件』講談社文庫、
『鳥取・出雲殺人ルート』講談社文庫
西村寿行『修羅の峠』徳間文庫
西村　望『丑三つの村』徳間文庫
新田次郎『強力伝・孤島』新潮文庫、『縦走路』新潮文庫
法月綸太郎『一の悲劇』祥伝社、『雪密室』講談社文庫
伴野　朗『刑事物語』徳間文庫
平岩弓枝『花の影』文春文庫
広山義慶『波の殺意』廣済堂文庫、『雪の殺意』ケイブンシャ文庫
深谷忠記『伊良湖・犬山殺人ライン』徳間文庫、『一七七文字の殺人』祥伝社
松本清張『ゼロの焦点』新潮文庫、『点と線』新潮文庫
麻耶雄嵩『翼ある闇』講談社文庫
三浦綾子『広き迷路』新潮文庫
三浦哲郎『忍ぶ川』新潮文庫
水野泰治『密室殺人講座』講談社文庫
水上　勉『雁の寺・越前竹人形』新潮文庫
皆川博子『世阿弥殺人事件』徳間文庫
峰隆一郎『新潟発「あさひ」複層の殺意』講談社文庫、
『西鹿児島発「交換殺人」特急』講談社文庫、
『博多・札幌 見えざる殺人ルート』講談社文庫

宮部みゆき『東京下町殺人暮色』光文社文庫、『魔術はささやく』新潮文庫、
『龍は眠る』新潮文庫
向田邦子『思い出トランプ』新潮文庫
宗田　理『皆殺しツアーにご招待』角川文庫
森村誠一『新・オリエント急行殺人事件』角川文庫、『夜行列車』講談社文庫、
『螺旋状の垂訓』講談社文庫
山浦弘靖『長崎の女殺人事件』双葉文庫
山口　瞳『江分利満氏の優雅な生活』新潮文庫
山田太一『冬の蜃気楼』新潮文庫
山村正夫『丹後半島鬼駒殺人』講談社文庫
山村美紗『伊勢志摩殺人事件』講談社文庫、『京都葵祭殺人事件』角川文庫、
『京都新婚旅行殺人事件』講談社文庫、『平家伝説殺人ツアー』講談社文庫
吉行淳之介『原色の街・驟雨』新潮文庫
吉村　昭『仮釈放』新潮文庫
吉村達也『「伊豆の瞳」殺人事件』徳間文庫、『シンデレラの五重殺』光文社文庫、
『編集長連続殺人』光文社文庫、『六麓荘の殺人』光文社文庫
連城三紀彦『恋文』新潮文庫、『宵待草夜情』新潮文庫
和久峻三『惨殺の金曜日』角川文庫
渡辺淳一『北都物語』新潮文庫